

日本

鉱工業生産指数（2019年7月）

## 輸出の減少基調を背景に、生産は低調継続

政策・経済研究センター

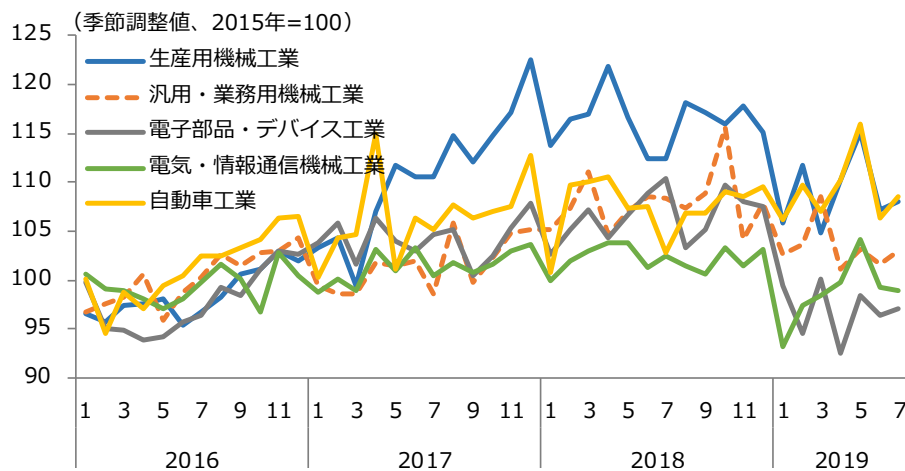
田中康就

03-6858-2717

## 1 鉱工業指数（生産・出荷・在庫）



## 2 業種別の生産指数



## 評価ポイント

## 今回の結果

- 7月の鉱工業生産指数（速報）は、季調済前月比+1.3%と、2ヶ月ぶりに上昇した。
- 業種別にみると、15業種のうち12業種が上昇。生産に占めるウェイトが大きい自動車工業（季調済前月比+2.1%）は2ヶ月ぶりに上昇。消費税増税前の駆け込み購入に備えた増産は小さいとみられるが、乗用車や車体・自動車部品を中心に底堅く推移している。
- 一方、アジア向け輸出の生産に占める割合が高い業種では、7月は小幅上昇したものの、19年以降は18年に比べて低い水準で推移している。電子部品・デバイス工業（同+0.6%）は、世界的な半導体関連需要の調整が下押し圧力となり、18年は19年よりも生産が約9%低い。汎用・業務用機械工業（同+1.4%）は、中国を中心とするアジア向け輸出の減少や、在庫調整圧力の強まりが生産抑制要因となり、低下傾向にある。生産用機械工業（同+0.7%）もアジア向け輸出の減少により力強さを欠く。
- 製造工業生産予測調査によると、19年8月の生産は季調済前月比+1.3%と見込まれているが、予測値に対する実績値の平均的なズレを経済産業省が補正した値は同▲0.7%程度であり、8月の生産は減少が予想される。

## 基調判断と今後の流れ

- 生産指数は、中国などアジア向け輸出の減少や世界的な半導体関連需要の調整を背景に、緩やかな低下傾向にある。
- 先行きも、生産指数の低調な推移を予想する。国内向けでは、消費税増税前の駆け込み購入に備えた増産が前回増税時（14年4月）に比べて弱いとみられる。海外向けでは、中国経済の減速などを背景に、輸出比率が高い電子部品・デバイス工業や生産用機械工業、汎用・業務用機械工業などで低下が見込まれる。
- 生産の下振れリスクとしては、①世界経済の一段の減速や、②輸出減少の波及や株安などによる国内需要の悪化、③金融市場における一段の円高進行、が挙げられる。